(廿五日夕刊)
磐城新聞
休刊 大祭第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料 二行五十錢(指定廿錢増)
發行兼編輯印刷人 蓮沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

薩摩琵琶 噫義人澤村公(一)

吉岡獨歩 作歌
大原錦陵 作曲

たのが身を
かへりみずして人の爲め
盡せし甲斐も荒濤の
身は泡沫と消ゆるとも
人の龜鑑と磐城なる
譽は代々に傳ふべし」
此處は都を天離る
鄙の果なる陸奥の
濱街道の咽喉に
城郭聳ゆる平藩
内藤侯の家臣にて
郡奉行を勤役の
澤村勘兵衛勝爲は
仁義に厚き勇士なり」
頃は慶安三の年
六月中旬勝爲は
續く旱魃に領分の
田畑を巡檢せばやとて
菅の小笠に三伏の
暑さを凌ぐ徒歩立ちの
供廻りさい惜々に
日毎廻村しけるが」
勝爲意裡に所爲らく
磐城郡はおしなべて
地味肥ね五穀登るべき
土地廣袤と有ち乍ら
小田に灌漑ぎて早苗をば
養ふ水はひたすらに
五風十雨の恩惠をば
命を待むばかりなり」
されば年頃打續く
旱魃の爲に年貢さい
いと安らかぬ民草は
竈の煙りも細々と
疲弊極めし狀態

思はず吐息洩らしつゝ
歩を移す下泉崎
陸奥太郎山光明寺に
歎順法師を訪ひり」
法師は世にも碩學の
譽秀でし聖僧にて
亦同藩の誼みあり
勝爲威儀を繕ひて
領民の塗炭を救ふべき
素懐を述べて敎訓をば
垂れ給はれと徐に
當座の一首詠じける
名には似ぬ泉崎にて水に飢へ
背らぬ村の寺の淋しさ
歎順法師莞爾に
打ち點頭きて曰はく
衲は固より世を捨てゝ
佛陀に仕ふる痩法師
さばかり乍ら藩侯の
鴻恩いかで忘れんや
いざ建策せん聽き給へと
稻の爲め江水曳かれよ闘場より
もちゆる水は山の麓を
三十一文字を吟せしが
法師は尙も𠀋むごろに
斯くせば磐城の民艸は
長く患惱を免るべし
されども友よ聞きねかし
こは難中の至難なり
身を殺してぞ仁を爲すと
云ふ言の葉も有磯海
藩主の御爲領民の爲め
力の限り努めよと」

語るを聞きて勝爲は
心安かれ師の御坊
思ひ立ちてはなが〳〵に
巖にも征矢は手束弓
曳きて歸らぬ武士が
一命捧げし努めんと
節ふ[illegible]あり」
歎順法師[illegible]し
あな勇ましの丈夫よ
重ねて一首祝ねんと」
民の爲め江水曳くなら勝爲よ
名は末代に寺も榮えん
襟にやさしき敷島の
大和歌をば昭和して
別れ去りたる勝爲は
歎順法師の敎訓をば
骨に鏤ばめ髓に彫り
公務の暇の折々に
磐城郡を蜿々と
横折伏せる山根をば
こゞしき岩根踏分けて
麓に沿ふて幾度か
地具さ勢に測量し
設計圖に成りたれば
江形圖面を作製し
工費も宛てん爲にとて
たのか食祿五百石
三百石を返上して
小川江筋の開鑿を
内藤侯に願ひける
侯は只管勝爲の
忠義を嘉みし家臣にと
採否の程を諮りしに
誰とて否と稻舟の
否む者なく勝爲は
江筋奉行を命せられ
面目其身に餘りけり」
翌る慶安四の年
谷の戸出る黃鳥の
聲うら寒き二月の
十五日を吉日と
其往昔は武士の
搆へし闘も今はただ
名のみ止むる闘場にと
出役なして勝爲は
先づ此許に夏井川
堰きてぞ入るゝ源門を
いと嚴かに裝置ひつ
豫て測りし山根をば
鑿き鑿きて平窪の
横山と云ふに及べるが
此處は名に負ふ夏井川の
水先近き難所なり」

明日の吉凶

舊曆二月十六日　新曆三月二十六日

▲一白 汗を厭はず奮闘すればたのしき晩餐に迎へらる
▲二黑 待てば甘露の日和もあるべしあせるに及ばず
▲三碧 人にをくるゝと躓かざる樣すべし急ぐは凶
▲四綠 口舌爭ひを持ち込まれ易し取引は尤も注意
▲五黃 分を守り過大の事を企てずば無事なるべし
▲六白 努力を第一として僥倖を願はざる樣にすべし
▲七赤 進む躁けの氣運に持たぬ日後日を待つべし
▲八白 高位に居れども兎角足許に不安を帶ひる日
▲九紫 身を持つこと誠實なれば福德共に入り來る

讀者欄

繪の尊さは

大八郎生

今日は「繪の尊いこと」に就てのお話を致します。一寸考へると繪なんかどうでもいゝとか、繪なんかどこが尊いんだなんて人が大そう多い樣に思ひます。皆さんは繪は何故に尊いかと云ふことを御考へになつたことがありますか。今日は一つのお話を致しまして、皆さんに[illegible]へていたゞきたいと思ひます。

[illegible]町時代のことでありました。雪舟と云ふ畫家がありました。而しその人は、小いころは至つて不勉強でいつも繪ばかり描いて居りました。で、途にお父さんやお母さんにおきかれた末、お寺の小僧にくれられてしまひました。まだわづか十二三才のころでした。お寺にやられましたが繪のすきな雪舟は、さつぱりお經など習はうともしませんので或日のこと、和尙さんは大そうおこつて、雪舟を柱にしばりつけて[illegible]

これは不思議小な雪舟の足元でなにか動いてゐるものがある。何だらうと思つて近づいて見ると、それは鼠でした、しかしどうも不思議である。晝日中人の居る所に逃げようともしない。どうしたことかともつと近づいて見たらそれは雪舟の描いた鼠でした。畫の好きな雪舟は、泣きながらも流れ落ちた涙を足の指につけて描いたのでした。そこで和尙もこれを見てつく〴〵感心し、以後繪を描くことを許しました。夫以來雪舟は畫を勉強して日本一、否世界一流の大畫家となつたのであります。

扨て、皆さんこの話の中にネヅミが生きて見えた話がありましたが、これに就て皆さんは本當と思ますか又こしらへごとゝ思ますか。尋常一二年生ならどにかく五六年生位になつたら、多分此れはこしらへことだらうと誰も思ませう。而しこゝが考へる必要があらうと思ふ大切な個所なんです皆さんはこの話によつて何か〳〵敎へられることはありませんですか考へて御らんなさい。

講談 幕末 [illegible]

(191) 渡邊默禪作　宮野歌春畫

「さア、捉まへた皆な來い〳〵泥坊を押へた〳〵」恰かも同夜の九つ頭藤屋の奥土藏前でけたゝましく叫ぶ聲がした。手代、丁稚役家のお萬まで一度にどつと驅付ける。見ると、火の番の平といふ男が一人の曲者を捻伏せてゐる。差かざす灯に映つた賊の姿は紛れもない小僧の淸吉、右の手に土藏の鍵を持つて、膝下に組しかれたりにばた〳〵ともがき立てゝゐた

「どうしたといふんだえ、こりや一体」とお萬は手ぼんぼりをかざして、淸吉を見下しながら、火の番の男に訊ねると

「内儀さま、此の二才奴は呆れ返つた野郎でがんすぞ昨夕遲く此の界隈を廻つてゐると、土藏の横から眞黒い物が飛出したゞから、よン捉めえべいと思つてゐるうちに逃げられて了つたゞ屹度家の者に違いねえがら、さん兵ねことを爲やがると思つて、今夜はお前さア、脊から此處へ隠れてゐたゞするとノツ〳〵忍んで來やがつて、土藏の戶をガチリ〳〵やつてゐるから、ソリヤと飛出して取捉めたンでがすよ、たひねね小兒で……大それた主人さまの目を晦まかして、土藏ン中へ泥坊に這入るなんてハア、押魂消たことをするだ、奴、降參したか、平生權助だの山出しだのと恐弄にしくさつても、惡うなつたら敵うめね、口惜しけりや、さア、立揚つて勝負打てッと腕まくりして、ぐい〳〵と首すねをやつける。淸吉はさからう勇氣もなく只聲を呑んで泣いてゐる

「ア、解つた、泥坊は泥坊でもたゞの泥坊ちやアない人間を盗みに這入らうとしたんだ」

とお萬は險しく光る眼に淸吉を睨みつけて

「コレ、手前は呆れ返つた橫着者だね、奉公人の分際として、主人の手元に在る鍵を盗み出して夜中に土藏の戸を開けるなんて、何といふ大膽な奴だらう、是は手前の智慧ではあるまい大方外に差金をした者がある、だらうさアそれが何處のどいつだか言つて御覽、さアお言へ」

と眞白な手を伸して衿髮を摑んでぐつと曳起した

「内儀さん、誠に濟みません」と淸吉はシク〳〵と啜り上げて、私誰にも頼まれはしません、頼まれて爲たことではございません」と言ふ

「ぢやア、手前の一存でお雪を連出さうとしたのかえ」

「はい」

「呆れた奴だねどうしてそんな料簡になつたい」

「た、た、た孃さんが、あ餘りお可哀想ですから、お助けて上げやうと思つたんで」

「何、助ける?生意氣なことを云ひでない、こらしめの爲めにちつと辛い目に遇はせやうと思つて爲たことを手前のやうな小兒に橫合から邪魔をされて堪るもんかね、而してお前はお雪を盗み出して、何處へ逃がしてやる心算であつたの」

「わ、私の實家へやつて、お父さんに來て貰つて詫をもでやる心算でございました」

「オホ、小兒だねえ、そんな事を爲たつて、誰が承知を爲るもんか現に角手前は家に置かれやしないよ許してやつた日にはどんな事をされるか薄つ氣味が惡ッてならないから、今夜の中にお拂ひ箱だよ、さア大衆」と一同を回看して「此の小兒を打つなり蹴るなりして、戸外へ叩き出してお呉れ」

此の號令に得たりや應と躍り寛つた店員達、面白半分淸吉を袋叩きにして、ひい〳〵と泣くのを無理に店外へ曳摺出し無慈悲の放逐處分に行つた。斯くして雪江唯一の味方が失はれた、同情者が無くなつた救命袋が浪間に破れた、燈臺の火が滅れた、殘る命綱の兄勘太郎は向島の別莊に囚はれて妹の身上よりも己れの生命が氣遣はれる程の危境に陷つてゐる是も望がない、あゝ雪江はいかにして我を呾ふ死神の手から免れ得ぬであらうか。

春向が澤山入荷いたしました
着尺
ナフトール尺着
モスリン
セル
ネル
帶皮
其の他色々
どうぞ御用命を願ます
龜田屋 電話五七

廣告
吉田眼科醫院

產婆看護婦 生徒募集
修業の年限產婆看護婦通ジテ滿ヲ一ケ年
願書四月八日限リ(可成至急提出)
平町一丁目
石城產科婦看護婦學校
電話三五七

貸切自動車の御用命は
昭和タクシーへ
高級車で乘心地の好い
昭和タクシー
平驛前
電話は三四三番
サシミ

◎のどかな春!
旅行に散策に 皆さんの御好みになる
春の中折
鳥折帽子
子供さんの帽子
本月のウエンドウは春帽を陳列致しましたから御批評下さい
にツルヤ
平町四丁目
電話百四十番

入院隨意(自炊の便あり)
X光線科
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九

春の彩り裝ひは三井へ
羽二重九寸
博多九寸
京御召と錦紗小紋
主婦ノ友三秀會特撰 帶皮陳列
何卒御用命ハ弊店へ
平町 三井呉服店

◆內臟外科
◆外科一般
◆花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町大通り
安齋外科醫院
電話四三六番

安全第一
諸債券、公債ノ御用ハ迅速簡易ヲモツトートスル弊店ヲ精ニ御利用クダサイ
營業課目
勸業債券
復興債券
公債其他 兩替 金融
質物一般 取扱
多田井商店
平町大工町

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達請負 其他
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵 金物問屋 釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番 一一三九番
振替貯口金座東京一〇九五六番
確實敏捷は久の生命なり

アイギ
こんご仕入れた正札堂のアイギの安賣り見て御座れいつも安いご御客の聲を早う聞きたい正札堂
一、雨の降る日にやゴム引マント どんな嵐もなんのその
一、生地の自慢は黑セル茶セル それに連添ふレンコート
一、早賣り安値はいつもの主義よ 角力に負けない豊富山
正札堂

單價數量ともに前年と同樣の鐵道納炭 出炭送炭も九月迄制限 活氣つく常磐炭

常磐炭礦の鐵道省納炭契約は來る三月卅日を以て契約期間が終了し四月より新年度に移るので目下次年度の納炭契約中であるが當初噸十錢內外の下値を豫想されてゐたのに反し事實は炭價並に納炭數量とも昨年と同樣の契約が成立したので各炭礦當局は豫想外の成績に喜悅してゐるが更らに三月末を以て期間滿ちる常磐炭礦聯合會の協定に係る出炭及び發送制限は四月より九月まで夏季石炭の需給調節の爲め更らに一割の制限をなす事となつたが各炭礦とも漸く活況を呈してゐる

入山炭礦のグラウンド 新たに新設

湯本町入山會社では同事務所前なる約四千坪の廣場を從業員のグラウンドにすべく昨廿四日午前八時から同社運動競技委員二百名が地均を行つたが來る四月上旬

詐欺常習の反物屋 平署に捕はる

平署では二十三日午後七時磐越東線列車で平驛に下車した呉服商人福島市大町生れ當時東京府下八王子町居住笠原三次郎(三七)秋田縣秋田郡湊町生れ同三浦倉治(三九)の兩名を本署に引致一應取調べの上二十四日朝兩名を三春署に引渡したが同人等は二十三日田村郡常葉町其他各所に於て郡山津野呉服店員だと稱して僞の反物を高價に賣つけ詐欺を働き同日午後五時大越驛發列車で逃走を企てたことを三春署が探知し取押へ方を平署に依賴したものであるが同人等は常に各地に於て大商店の名義を亂用し詐欺を働いてゐたものであると

鑛稅二十萬圓の半分を移讓せよ 郡內關係町村長が更らに實現運動

石城郡內炭礦所在地及これに關係する町村では礦產稅が直接稅のため何等得るところなく却て所在地なるが故に害を損失も年々甚しくせず教育費を始めその他の經費は年々加速度に膨脹を來してゐるもこれが財源については非常な頭痛の種であるところから礦產稅二分の一の町村委讓に就き全國礦業地の各町村と協力して數年來猛烈なる運動を續けつゝあつた事は當時所報の如くいよ〱今期議會に本案の提出を見るに至り且這般衆議院は無事通過し現在貴族院委員會はこの豫算總額は八百七十五萬六千七百十六圓となる譯である內村

農會の補助二萬圓否決された工業試驗場が復活すれば三萬七千圓爾共同出荷一萬一千圓合計四萬八千圓を增額する事になる譯で一萬圓を要する栗子峠は問題とならず縣もこれには匙を投げ申請しなかつたがこれ等原案執行及縣歲入の諸稅に對する本省の認可を得べく加勢知事は第百七銀行の第二整理案を携へ上京の序に內務省へこれが認可促進諒解運動のため二十二日上京した

町菊田座に於て開催定刻齋藤部長の開辭、後藤署長の詔書倖讀教訓示、指示、協議事項を附議し平山保安課長の訓示役員總代赤津庄兵衞氏の謝辭あつて式を閉じ宴に移り植田紅褸連總出し酒間を斡旋し五時散會した

四方を塞がれて延びれぬ平驛 平小鐵道の開通を機に大々的擴張計劃

最近の平驛は貨物の集散多く常に貨車が輻輳し一列車の貨車全部を入れ得ない程に構內が狹隘となつて居り殊に平小鐵道が開通することになれば常磐炭礦から移出する炭車にて全く動きが取れないことになるので鐵道當局では目下同驛構內の擴張につきそれ〲考究中であるが現在の平驛は前に城山を控驛前は住宅に南はトンネル北は夏井川にてさいぎられて居るため何づれに擴張しても非常な多額の工費を要することになるので鐵道當局でも頗る頭を惱めて居るが驛構內擴張は目下の急務となつて居るため取敢す現在の車掌詰所前から保線區の前まで一線を增加し貨車の輻輳を緩和し平小鐵道開通までに機關庫裏手方面を大擴張することになる模樣である

川前驛で貨車脫線 岩石が邪魔で

平驛發二十五日午前四時五十分の五一號貨物列車が六時五十分頃磐越東線川前夏井驛間に差掛るや俄然機關車から第二輛目の貨車が脫線したので急停車し原因を調査した結果同所は切割地なのでいまゝで凍結してゐた岩石が二三日の暖かさに緩を生じ落下し線路に橫たはつてゐたものでこれがため各驛は時ならぬ雜踏を呈した

鹿島村で復興村債 二萬圓を起債

石城郡鹿島村では去月二十五日の大火の際走熊、倉持の二部落が全燒したのでその後復興に就てそれ〲對策を講じつゝある復興に要する資金は相當多く今回二萬圓の村債を起すことになつた

植田署管內 消防幹部會 きのう植田で

植田署管內の消防幹部會は二十四日午前十時より植田

平校新入學 けふ小入學の手續

平町本年度就學兒童は今廿五日平第一、二小學校に於て平町役場吏員、小學教師と共に就學兒童受付をなした

行人を轢く 運轉手を取調中

二十三日午後二時ごろ石城郡湯本町落葉自動車部の乘合自動車を運轉手齋藤七郎(三三)が運轉內郷村字綴國道を疾走中內郷村字小島佐藤三平所有乘合自動車を運轉手鈴木三郎(三三)が操縱して前記自動車を追ひ越さんとして過つて內郷村宮益子由五郎(四六)を轢き倒し重傷を負はせたので二十四日鈴木運轉手は平署に召喚

繪葉書に刷つて平の櫻を宣傳 後一ケ月に迫つて松ケ岡花準備

平町松ケ岡公園は花の名所として本縣內でも指を折られてゐるが平町役場では花の名所を更に廣く天下に紹介し觀櫻團を吸集する計劃のもとに昨年中撮映した絢爛と咲き亂れてゐる櫻の寫眞を繪ハガキとし隣縣の水戶を始め縣內では中村、福島、郡山、若松、白河の各鐵道沿岸町村の官公署、學校、各團體、會社等に約一萬枚を發送する事となり目下それ〲準備を急いでゐるが平町はお話にならない程の不景氣な時であり各所を紹介すると同時に觀櫻團を集める計劃は時機に適したものであると一般から喜ばれてゐる

自營平部協議

自營平部協議會平支所では來る四月上旬頃理事總集を行ひ豫算附議決算報告をなす筈である

農事同窓會 けふ郡役所に

石城郡農會主催の中堅農講習會は一ケ月の講習を終り去十五日終了式を擧げた事既報の如くだが同會同窓生は廿五日午後一時より平町元郡役所內に會合し第十八回同窓會を開催次の各項を協議した

一、本年度總集會開催の件

一、日時方法準備會費の件

一、刊行物に關する件

其の他數項

入山將棋總會

湯本町入山會社從業員天狗連から成る將棋團は昨廿四日午前八時から臺山倶樂部に於て優勝試合を開催盛會裡に午後五時終つたが同試合は年四回開催すると

鐵道妨害檢證 鯨岡主任一行が

石城郡神谷村地內に於ける鐵道妨害事件の被疑者同村字鎌田村金成紫郎は平署に拘留中であるが二十四日平署鯨岡司法主任以下實地檢證のため被疑者を連行の上現場を臨檢した

入山生活改善 會社で葬具貸與

石城郡湯本町入山採炭會社では生活改善第一步事業として同會社從業員に葬具一式を無料にて貸與する筈で一般から喜ばれてゐる

童話と童謠 三十日平陽校で

平町磐城兒童藝術研究會では來る三十日午後一時より平陽女學校に童話と童謠の會を開く事となつたが東京より聲樂家中瀨すい子さんが臨席すると

お禮に上京 小野町議一行

石城郡小名濱町に於ては同町多年の懸案であつた商港の實現が確定したので廿四日町會議員小野晉平氏外五名が町民を代表して上京し內務省を初め關係各省並に政友會民政派兩本部を訪問して商港實現に付いて盡力してくれた禮を述べた

事務所の新築と性能機を新設 愈々意義を認められた 平町職業紹介所

平職業紹介所に於ける昨年の事務狀態を聞くに次の數字が示す如く年々求人職共增加するばかりであるが同所係員の談に依ればこれは必然な事で益々世の中の進步さともに紹介所の意義を一般に周知せしめ大いに大衆の便宜を計る筈で來年度には性能機を購入し同所の新築と相俟つて事務の擴張をなすが四年度豫算は三千四百九十六圓を計上されてゐる

△昭和二年度

(求人)男四二〇　女四六

(求職)男四四六　女四七

(就職)男二八八　女二七

△三年度

(求人)男五三六　女三九

(求職)男五二六　女五三

(就職)男三二六　女二八

石城產看校 けふ卒業式

平町一丁目石城產科婦看護婦學校第廿九回卒業式は今廿五日擧行したが卒業生次の如し

△(產婆科)稻葉支子 今宮カメヨ 伊藤サカエ 飯島マツヨ 猪狩ハナヨ 早見キヨミ 原ミツエ 戶川ナツノ 野木イト 大和田芳子 大塚ヨシ子 大友ハツ 渡邊ナカ 渡邊アヤ 渡邊美子 渡邊マサヘ 渡邊キヨ子 川島はる 金成ヤス子 谷本トヨ 高木ムメ 田久キミ 高槻いち、長瀨ヒデ 中井ミツヨ 新妻松子 熊田キク 草野マサ 矢內正子 山口マツ子 松崎ツネ 松本チエ子 牧野ハツヨ 古市ハナヨ 小松キク 江尻文子 照山カネ 愛川とサノ 佐藤サダ 佐藤サダヨ 西丸カク 北崎タケヨ 白木タキエ 志賀チヨ子 柴田ツユ 蛭田ハツ 關イチ 鈴木はな 鈴木マスノ

△(看護科)稻葉文子 今宮カメヨ 伊藤サカエ 飯島マツヨ 猪狩ハナヨ 早見キヨミ 原ミツエ 戶川ナツノ 大和田芳子 大塚ヨシ子 大友ハツ 渡邊ナカ 渡邊アヤ 渡邊美子、渡邊マサヘ 渡邊キヨ 川島はる 金成ヤス子 高木ムメ 長瀨ヒデ 中井ミツヨ 熊田キク 草野マサ 矢內正子 山口マツ子 松崎ツネ 松本チエ子 牧野ハツヨ 古市ハナヨ 小松キク 江尻文子 照山カネ 愛川とサ 佐藤サダ 佐藤サダヨ 西丸カク 佐藤富子 北崎タケヨ 綠川ミドリ 白木タキイ 志賀チヨ子 蛭田ハツ 蛭田ハマ 平澤クメ 關イチ 鈴木はな 鈴木フサ子 鈴木マスノ 鈴木美智

□取消　貴紙三月廿日附第二面紙上『遠野裁縫校の生徒連袂退學』と題する記事中俸給不拂ひ又は婚談を拒絕され等は全く無根の事に就き御取消相成り度候　上遠野裁縫女學校　折笠利市　磐城新聞社御中

四家主任出席

平職業紹介所四家主任は二十五六日に開かる東京中央紹介事務局の少年就職打合會に上京した

平第一校優等生 各學年別調べ

平第一小學校卒業式は廿四日擧行したが優等賞受賞者は次の如し

尋常科第一學年生　藤田榮一 植村力夫 小坂隆道 中田明 柏原喜一郎 會田五郎 坂本行藏 國井好治 佐藤誠 酒井洪 關內弘吉 諸橋富彌 阿相源次郎 高野忠也 根木太平 永山武廣 堀英一 柴田讓 大泉嘉平 小鍛治弘文 安齋憲次郎 山崎福次郎 內藤晃 坂本皆惇 大森濟次郎 安齋光男 鈴木保光 中野目弟明 橋本憲彥 龜岡憲太郎 鈴木將夫 袖山勝伯 關原定之 蛭田光一 伊關太郎 吉田登 佐川清 石川四郎 麻生川普顯

尋常科第二學年生　志賀正義 新島博 石崎久雄 高倉三郎 片寄藤次 矢野浩一 石島弘德 大森昌一 藤田晋一 山下卓明 岩崎久次郎 鈴木康男 吉田武弘 金山英雄 富田耶郎 舟生保久 根本忠雄 高野邦一 中野五郎丸 鴫原宏 酒井英安 八田宗市 佐々木良夫 荻原茂八 遠藤吉雄 片寄博 宮崎正澂 山崎道雄 星野喜四郎 小林正久 阿部和平 根本透 中川信一 小松公平 田中榮太郎 酒井一郎 諸橋唯雄 鹿島康宏 平野井正治 永島友貼 鈴木誠一

尋常科第三學年生　鈴木洋一郎 柴田旭雄 江口成年 大槻卯之助 丹野英彤 木村健治 大坪章 白土力男 橋本喜言 橋八郎 林譽喜志 和田壽夫 安孫子義秀 遠藤赳夫 高田憲一 愛澤鹿山 志賀長平 長瀨高行 長谷川隆 龜岡進一 大橋盛 田中平四郎 水野三郎 先崎正 有馬德衛 坂本正光 松田浩一 松本浩平 大和田康二 北野正明 鈴木忠友 松崎由郎 山田晋 鈴木輝男 阿部宏四郎 根本淳平 大原馨 阿部貞太郎 金成賢一 明智一郎

尋常科第四學年生　佐藤政雄 鈴木孝至 長谷川元久 高田勇 管野正雄 酒井英世 久保木武雄 石川福太郎 高野健 中澤登 伊藤傳一郎 寺門友巳 佐藤健夫 青山新太郎 柏原義弘 岡田彥太郎 鹿島幹司 殿木隆之 鈴木義雄 關內榮三 中野久男 水野吉己 鈴木光 酒井清一 木下良平 松崎利光 鈴木弘 小野幸雄 田中英男 荻野弘 阿部順吉 綠川正 廣木茂 阿部惣太郎 佐藤光

尋常科第五學年生　船山勝衛 山崎研治 猪狩忠也 青木芳朗 柴田內面一 鈴木志郞 永山隆三 白土德治 荻原正雄 高杉精一 柏原進 宮本芳一 丹野安直 阿部元彥 床宿達夫 猪狩智之進 增尾克善 根本善一郎 川觀三郎 大塚辰雄 渡邊好暉 鈴木康輔 大竹誠之助 松村政治 新田目正夫 今宮浩 水野重雄 吉村喜一 星野三郎 宮內一郎 高階次郎 中野目知明

尋常科第六學年生　高田孝 中野德郎 桐谷義男 佐々木健夫 堀川正一 鈴木美芳 佐藤文男 藤田彥太郎 梶原彊 富田二郎 鈴木繁好 高荻賀 石坂光雄 中島英一 關內三郎 田中訓三 高野昌久 中村芳郎 鈴木忠 森川忠吉 樫村一男 都田保敏 小川享晋 川貞雄 岡田正敏 大和田高明 大澤辰男 岩崎庄三 海老根忠男 中野武 小田悅也 小原修一 五十嵐喜八郎 荻野秀雄 金田定男 富田久光

高等科第一學年生　酒井善治 須藤祐吉 渡邊務 白井晃 新妻衛 織田文男 船生勉 椎名正雄 高橋逸郎 鈴木巖 木村正行 松本武弘 鈴木正夫 根本一郎 阿部修一郎 內藏敏二 飯塚信男 池津正 林鐵男 酒井武 永山清治

高等科第二學年生　稻葉勝藏 富田俊雄 金澤好美 橘四郎 山口佐市 松本茂 鈴木保夫 飯田義衞 鈴木滿義 大河原榮 古市勇 鈴木靖 和田福美

福島縣石城郡平町 南町廿六番地
星眼科醫院
星恒明

廣告
一、本科生百名　尋常小學校准教員並師範學校準備教育
一、普通科生第一學年生百五十名　中學校の學年同一程度
一、募集期限　三月三十一日限り
一、高等小學二學年卒業生は試驗を要せず入學許可す
右募集す
昭和四年三月
私立佑賢學舍

內臟外科
骨關節外科 專門 藤本順
整形外科
產科
婦人科 院長 木村寅次郎

外科 婦人科
平町新川町
木村醫院
電話一六四番

レコードハ此のマーク!を
HIS MASTER'S VOICE
TRADE MARK REGISTERED
店員募集
肉聲のビクターレコード販賣店
會田時計店
平町四丁目(電話三六三番)

內科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋疾
皮膚病 市原三三男
平町田町本通
(入院隨時)
市原病院
電話一一四番

大和田醫院